

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓である「自主自律」「和親協力」を背景に、変化の激しい時代に対応できる人材を育成し、生徒・教員がともにチャレンジする学校をめざす

- 1、基礎学力の定着を背景に、広い教養を身につけた上で、健全な議論や思考ができる人材の育成する。
- 2、急速に進むグローバル化に対応する英語教育を根幹とした新しい国際教育を研究・開発・展開する。
- 3、自由な校風と自主自律・和親協力を背景に、学習と部活・行事の両立をはかる。

2 中期的目標

1. 学力の向上

- (1) 学習習慣の定着を図る。

ア. 高校生として必要な基礎学力の定着と方法を認識するためのシステムの開発を進める。

イ. 学年・教科の壁を越えた学校としてのスタンダードを開発し、明確に示す。

※効果検証 学力生活実態調査の結果：平成 26 年度…入学時 A3 以上が約 200 名→高 3 のスタート段階が約 20 名

平成 29 年度…入学時 A3 以上が約 200 名→高 3 のスタート段階が約 100 名を維持

- (2) 教員育成のための研修・勉強会を実施し、統計資料を担保とした効果検証を行い、フィードバックを厳しく行う。

ア. 上記 (1) を実現するために、検討された内容を教科横断的な研修・勉強会を通じて、検討・定着を進める。

イ. 検討された上記 (1) について生徒アンケートや模擬試験などの結果から効果検証を行い、フィードバックを行う。

※効果検証 授業満足度について、保護者アンケートにおける「よくあてはまる」を平成 26 年度 8 %→平成 29 年度 20 %

- (3) 上記を実現するために必要な学校組織の在り方や施設・設備の整備を進める。

ア. 上記 (1) (2) を達成するために、必要な学校組織の再編を進める。

イ. 特にスクラップアンドビルドを認識し、スマートな組織・業務運営を図り、教員が生徒とかかわれる時間を確保する。

2. グローバル時代に対応する教育システムの開発

- (1) TOEFL iBT を中心とした英語教育の改革を行う。

ア. 「骨太の英語力養成事業」を活用し、新しい英語教育システムを開発する。

イ. 上記事業を活用し、外部との連携を図り、生徒とともに本校教員も学び続ける。

ウ. 上記事業を活用し、TOEFL iBT を受け、右の成果を出す。

※効果検証 (1)ウ	TOEFL iBT 80 点	TOEFL iBT 60 点	TOEFL iBT 40 点	受検者数
平成 27 年度	0 名	6 名	15 名	60 名
平成 28 年度	2 名	10 名	20 名	80 名
平成 29 年度	4 名	15 名	25 名	80 名

- (2) 上記 (1) の実現に必要なスキルであるロジカル・クリティカルシンキングを理解・実践する。

ア. スキルを学ぶための思考ツールの開発を行う。

イ. 開発したツールを使用するための授業方法として、まずは日本語のディベートやプレゼンテーションなどを行う。

- (3) 海外留学生の受け入れ態勢を整備し、海外語学研修や修学旅行などの機会を充実させる。

ア. 従来よりも多くの留学生が本校に訪訪してもらい、本校生徒との交流の機会を増やすシステムを開発する。

イ. 海外語学研修や修学旅行については、事前事後の学習を通じて実感を通じた理解を進める。

※効果検証 ア：平成 26 年度 3 名→平成 29 年度 10 名

- (4) 国際科（グローバル科）開設に向けて、さらなる英語教育の充実を図る。

ア. TOEFL iBT 以外の外部評価として英語学力調査を導入する。

イ. 「グローバル科設置準備委員会」を中心に、箕面高校ならではのカリキュラム等を構築する。

3. 進路・生徒指導の強化

- (1) 進路実現のために必要なシステムの開発を行う。

ア. 国公立大学への進学実績を伸ばす。

イ. 上記 2 (1) を受け、国内の国際系大学※への進学のシステムを構築する。

ウ. 上記 2 (1) を受け、海外大学への進学をめざすシステムを構築する。

※国内の国際系大学…大阪大学外国語学部・早稲田大学国際教養・上智大学・国際教養大学・国際基督教大学などをさす。

※効果検証 ア：平成 26 年度 20 名を平成 29 年度 50 名にする。 イ：平成 26 年度 4 名を平成 29 年度 10 名にする。

ウ：平成 26 年度 3 名を平成 29 年 10 名にする。

- (2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。

ア. 基礎的な生活習慣の定着を進める。

イ. 生徒会を中心とした、自主的な活動を推進する。

※効果検証 ア：年間遅刻者数を平成 26 年度約 6000 件を、平成 29 年度には約 3000 件まで減らす。

- (3) 地域との連携を意識し、様々な機会を通じて、情報発信と協働を行う。

ア. 部活動を中心に地域のイベントへの協力などを進める。

イ. 本校の英語教育の発展のため、そして地域の英語教育の発展のために、人材の相互交流を進める。

ウ. ホームページや広報素材を充実させ、本校を希望する方々や同窓生の方々への理解を充実させる。

4. 学校経営推進費事業の活用

- (1) 平成 27 年度の上記事業を活用して、以下の事項に取り組む。

ア. 自習室・進路指導室の機能の向上を図る。

イ. 国際科（グローバル科）設置に伴い職員室の改修を図る。

ウ. 教職用 I C T 機器の充実と研修体制の確立を図る。

府立箕面高等学校

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1 保護者アンケートより [全般]</p> <p>(1)子どもは箕面高校へ行くのを楽しみにしている。92% (2)子どもは、自分の学級が楽しいと言っている。87% (3)箕面高校に入学させてよかった。95% (4)箕面高校は、教育方針をわかりやすく伝えている。80% (5)箕面高校を信頼している。91% (6)子どもは箕面高校を信頼している。90% (7)箕面高校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。87%</p> <p>[学習指導]</p> <p>(8)子どもは、授業が楽しくわかりやすく楽しいと言っている。62% (9)学習の評価については、納得できる。92% (10)学習の内容や進度等を、懇談や通信などによって知ることができる。66% (11)先生は子どもの評価を適切・公平に行っている。91%</p> <p>[生徒指導]</p> <p>(12)箕面高校の生徒指導の方針に共感できる。86% (13)先生は子どもを理解している。86% (14)先生は子どものまちがった行動を正しく指導してくれる。88% (15)箕面高校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。80% (16)箕面高校の生徒指導の方針は、保護者に示されている。74%</p> <p>[進路指導]</p> <p>(17)箕面高校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。83% (18)進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている。62% (19)先生（担任）は、進路に関して丁寧に指導をしてくれる。82%</p> <p>[教育相談]</p> <p>(20)子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。70%</p> <p>[人権]</p> <p>(21)箕面高校は子どもに生命を大切に作る心や社会ルールを守る態度を育てようとしている。80% (22)子どもは、学校に友達がいると言っている。96%</p> <p>[学校行事等]</p> <p>(23)箕面高校の文化祭は活発である。97% (24)箕面高校の体育祭は活発である。98% (25)箕面高校の生徒会活動は活発である。90% (26)箕面高校の部活動は活発である。95%</p> <p>[国際]</p> <p>(27)英語教育が充実している。92% (28)国際交流や異文化理解に関する取り組みが充実している。91%</p> <p>[情報提供]</p> <p>(29)箕面高校は、教育情報について、提供の努力をしている。81% (30)箕面高校のホームページをよく見る。31%</p> <p>[安全教育]</p> <p>(31)地震や火災などの場合、どのような行動をとればいいのか具体的に知らされている。53%</p> <p>[PTA]</p> <p>(32)箕面高校のPTA活動は積極的に行われている。76%</p> <p>[参画]</p> <p>(33)箕面高校の授業参観や学校行事に参加したことがある。84%</p> <p>2 生徒アンケートより [全般]</p>	<p>第1回 [平成 27 年 5 月 16 日 (土)] ●：委員 ○：事務局</p> <p>＜意見書の提出について＞</p> <p>[制度の周知]</p> <p>●箕面高校はうまくいっているのでこの制度を活用するケースは恐らくないが、制度があることは大切。 ○PTAの委員会等の機会を活用して意見を聞くようにはしている。</p> <p>＜「骨太の英語力養成事業」について＞</p> <p>[SET]</p> <p>○昨年度との相違点は次の2点。①SET(SUPER ENGLISH TEACHER)が配置された、②「TOEFL iBT 特設レッスン」が計3コマに増えた(2年1コマ、1年2コマ)。 ①について。本校のSETは日本人であり、昨年まで近隣の国際系私立高校で英語及び数学を教えていた。学校での勤務経験があるので学校内の諸制度等を理解しており、また人柄も良いので英語科の他の教員ともすぐに打ち解けた。授業力も高く良い人材を配置していただいたと認識している。 ●SET採用にあたり教員経験は必要なのか。 ○教員経験や教員免許状等は応募要件としては関係ない。国籍条項もない。ネイティブのSETも採用されている。SET受け入れに対し本校では特に課題はなかった。 ●英語を教える場合、ネイティブの教員よりも日本人の先生のほうが上手であると聞いたことがある。ただ、保護者には自分の子どもが習うならばネイティブの教員の方がよいという意見もある。 ○学習するに当たってはマインドが大切。特設レッスンを担当する教育産業に対してもネイティブと日本人の講師が交互になるように依頼した。</p> <p>[経費負担]</p> <p>●「特設レッスン」の受講にあたり、受講料等生徒の経費負担はあるのか。 ○ない。但し、テキスト代(約7,000円程度)は必要。 ●少しの経費負担は問題ないが、経費負担はあったほうがよい。</p> <p>[特設レッスン]</p> <p>●昨年度「特設レッスン」を見学した際、箕面高校の先生方がTTで頑張っている様子が伺えた。 また2度見学できたので、生徒の進歩が見えてよかった。</p> <p>[普通科への波及効果]</p> <p>●普通科生徒への対応は。 ○昨年度実施した放課後の「語学レッスン」に普通科生徒も積極的に参加した。 ○「特設レッスン」をサポートした教員はそこで学んだ教授法等を普通科クラスの授業にも活用している。 ○一方、「特設レッスン」を受講した国際教養科生徒は授業で挙手するなど例年になく積極性が見受けられる。また、部活動でもリーダーシップを発揮している。</p> <p>[目標設定]</p> <p>●目標設定とは何か。 ○府教委からは3年間の達成目標として次の3つが提示され、各校がどれか1つを設定するよう指示を受けた。(①②③は各学年の終了時の達成目標) 「Stage 1」は①iBT 40点以上(全体の10%)、②iBT 40点以上(全体の50%)、③iBT 60点以上(全体の10%) 「Stage 2」は①iBT 40点以上(全体の30%)、②iBT 60点以上(全体の10%)、iBT 40-59点(全体の70%)、③iBT 80点以上(全体の10%)、iBT 60-79点(全体の20%) 「Stage 3」は①iBT 60点以上(全体の5%)、②iBT 80点以上(全体の5%)、iBT 60-79点(全体の20%)、③iBT 80点以上(全体の20%)、iBT 60-79点(全体の30%) 本校は「Stage 2」を設定した。</p> <p>＜「平成 27 年度学校経営計画」について＞</p> <p>[変化]</p> <p>○平成 28 年度選抜より選抜が後期一本化される。国際科(グローバル科)に改編されれば理型選択が可能になる。 ○校内組織として昨年度立ち上げた「骨太英語プロジェクト」を「グローバル人材育成プロジェクト」に発展させる予定。 ○室長制度を廃止した。 ○1限開始前の8時33分頃、昨年度はたくさんの生徒が校門付近を通過していた。今年度はほとんど生徒の姿が見受けられない。 ○学年の意見をできるだけ吸い上げるため1・2年の学年主任に首席を配置した。</p> <p>[遅刻]</p> <p>●なぜ遅刻がいけないのかを理解させているのか。 ○「遅刻は家庭の責任」であることを入学式後の保護者集会で説明した。様々な機会を通じて発信していきたい。ただ、本校は自転車通学が多く雨の日はその生徒がバ</p>

府立箕面高等学校

<p>(1)箕面高校に行くのが楽しい。87%</p> <p>(2)自分の学級は楽しい。89%</p> <p>(3)箕面高校に入学してよかった。90%</p> <p>(4)先生は、学校教育方針をわかりやすく伝えている。76%</p> <p>(5)箕面高校を信頼している。79%</p> <p>(6)保護者は箕面高校を信頼している。85%</p> <p>(7)箕面高校には、他の学校にない特色がある。91%</p> <p>[学習指導]</p> <p>(8)授業はわかりやすく楽しい。64%</p> <p>(9)学習の評価については、納得できる。85%</p> <p>(10)授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。80%</p> <p>(11)評価の仕方や基準について、事前に示されている。86%</p> <p>(12)授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。76%</p> <p>[生徒指導]</p> <p>(13)学校生活についての先生の指導は納得できる。81%</p> <p>(14)箕面高校の先生は、あなたのことをよく理解している。67%</p> <p>(15)箕面高校の先生は、いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる。65%</p> <p>(16)箕面高校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。80%</p> <p>(17)先生は生徒の意見を聞いてくれる。80%</p> <p>[進路指導]</p> <p>(18)将来の進路や生き方について考える機会がある。90%</p> <p>(19)箕面高校は、進路についての情報を知らせてくれる。89%</p> <p>(20)先生（担任）は、進路に関して丁寧に指導をしてくれる。83%</p> <p>[教育相談]</p> <p>(21)担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。55%</p> <p>(22)悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。66%</p> <p>[人権]</p> <p>(23)命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。69%</p> <p>(24)人権について学ぶ機会がある。77%</p> <p>[学校行事等]</p> <p>(25)文化祭は楽しく行えるよう工夫されている。95%</p> <p>(26)体育祭は楽しく行えるよう工夫されている。95%</p> <p>(27)ホームルーム活動は活発である。78%</p> <p>(28)生徒会活動は活発である。80%</p> <p>(29)部活動は活発である。95%</p> <p>[国際]</p> <p>(30)英語教育が充実している。87%</p> <p>(31)国際交流や異文化理解に関する取り組みが充実している。82%</p> <p>[情報提供]</p> <p>(32)箕面高校のホームページをよく見る。18%</p> <p>[安全教育]</p> <p>(33)箕面高校で、事件・地震や火災などがおこった場合、どう行動したらよいか、知らされている。52%</p> <p>[分析]</p> <p>○保護者生徒とも概ね、各項目において肯定感が高い。</p> <p>○「情報提供」の項目において、保護者・生徒とも低い。今後のHPの有り方も含め、広報戦略が必要。</p>	<p>スで通学するケースがある。このような日は遅刻数が増加する傾向にある。</p> <p>●家庭内では子どもの起床後からの声掛けが大切。</p> <p>[服装]</p> <p>○昨年度のハロウィンの日に外部から「パンダが走っている」という TEL が入った。数年前まで卒業式では羽織袴の生徒がいたり髪の毛をセットしている生徒が多く見受けられた。ここ数年は指導の成果がありそのような生徒は皆無。</p> <p>●家庭間の経済格差が反映されるのは良くないが、多少の格差は現実的には存在する。要は「常識」を身に着けさせることが大切。保護者の意識の変革も大切。「親が変われば子どもが変わる」のフレーズは高校生にも当てはまる。</p> <p>[国際科（グローバル科）の広報]</p> <p>●「国際科」は他にあるのか。</p> <p>○府立和泉高校1校のみ。</p> <p>●国際科に改編されて理系選択が可能になることは大切だが、国際科への改編＝理系選択可能とはなかなか結びつかない。広報が大切。</p> <p>●「基礎学力」は誤解されるので表記は不要。「21世紀型能力」の前に「文系理系を問わず」「国内海外を問わず」を挿入した方がわかりやすい。</p> <p>●「Philosophy」ではなく「アドミッション・ポリシー」。</p> <p>●「International English」もわかりにくい。表記については再考が必要。</p> <p>●男女比はどのくらいなのか。</p> <p>○現在国際教養科 80 名中男子は 13～19 名。今後は男女比が 4：6（男子が 30 名程度）になり、国際科での理系選択、特に女子の理系選択が増えればと考えている。授業のクラス編成においては普通科との合同選択授業のパターンも検討している。</p> <p>[GTEC 導入]</p> <p>○TOEFLiBT は経費も掛かり（1回 230 ドル）、また難しいので、普通科も含めた箕面高校の生徒を全員受検させることは現実的ではない。そこで英検ではなく GTEC を 1・2 年生全員に受検させる予定。英検が「○級合格」「△級不合格」であるのに対し、GTEC はスコア型。生徒にとっては点数の伸びが見え、英語学習に対する励みになる。</p> <p>《その他》</p> <p>[TOEFL アライアンス]</p> <p>○本年度、11/14(土)11/15(日)実施。主催は ETS。11/15(日)の会場は本校。午前は「TOEFLiBT 特設レッスン」の公開授業、午後は村上氏（前 Google 社長）の講演会を計画中（場所：本校体育館）。学校協議会委員の皆様にも見に来ていただきたい。</p> <p>第 2 回 [平成 27 年 11 月 21 日 (土)] ●：委員 ○：事務局</p> <p>《意見書の提出》</p> <p>[体罰対応]</p> <p>●中学校で体罰が報道されているが、体罰情報を救い上げる学校体制は整備されているのか。</p> <p>○2つある。1つは、年 2 回実施する「安全で安心な学校生活を過ごすために」のアンケート。これは府教委からの通知に基づき全府立学校で実施。もう 1 つは生徒に対する教育相談。月 1 回のペースで係の教員が交替で希望生徒の教育相談にあたる。</p> <p>《海外研修について》</p> <p>○本年度、夏季海外研修を 2 コース実施。冬季に校内で WinterCamp を予定。同志社国際高校から 10 名参加予定。来年度の夏季研修はボストン、シリコンバレー、国内で計画中。</p> <p>●海外研修と「TOEFL iBT 特設レッスン」との関係は。</p> <p>○それぞれが独立したプログラム。MIT 参加者の半数は普通科であった。</p> <p>《箕面高校の方向性》</p> <p>●箕面高校の今後の方向性は。</p> <p>○グローバル。普通科にもグローバル科の成果を広めていきたい。</p> <p>●グローバルは様々な分野で広く活躍するイメージがあるが。</p> <p>○大学進学率を上昇させることが学校の目的ではない。生徒に自分の進路を考えてほしいと思っている。</p> <p>《「TOEFLiBT 特設レッスン」について》</p> <p>●「TOEFLiBT 特設レッスン」を実施するに当たり教員負担が増えているのではないか。</p> <p>○「TOEFLiBT 特設レッスン」に参加することは自分自身にとって貴重な勉強の機会。10 年後には必要なこと。次の勤務校でも必ず役に立つと思っている。</p>
--	--

府立箕面高等学校

- 校長が変われば学校の方針（めざすべき方向性）が変わるのではないか。
- 学科改編も含め、様々な取組は教員や保護者・生徒からのヒアリングに基づき実施している。次の世代の教員が実施主体の中心メンバー。箕面高校としてのマインドが変わらないように、また、次の校長及び生徒が困らないようにしたい。
- 進学に力点を置いているのがわかる。「TOEFL iBT 特設レッスン」が進学実績に繋がるのが理解できる。昨年度や前回も見学したが場の雰囲気に変化が感じられる。生徒が先生方に引き付けられているのがわかる。
- TOEFL iBT 対策用の補講を実施している学校もあるが、本校は TOEFL iBT 用の特段の対策は実施していない。通常授業の中に取り入れることが府教委からの指示。
- 箕面高校の伝統は自主自律。箕面高校の今後の方向性について不安に思う人もいるので丁寧な説明が必要と思う。
- 以前、国公立大学合格者を増やすという方針説明を受けた。その時は本当に実現できるのかと思ったが、実際増加している。箕面高校が良い方向に向かっていると思う。

≪「平成 27 年度学校経営計画」の進捗状況≫

[遅刻]

- 遅刻が減少傾向にある。メロディーチャイムを導入した効果も大きい。

[学習時間]

- 家庭学習の時間が少ない。原因はスマホ。
- 世界の人々とディスカッションをする上で、ディベートでの即答は必要。一方で課題にじっくり取り組むことも重要。要は忍耐力。
- 難しい問題に対してはすぐにあきらめてしまう傾向がある。発想を転換して、逆にレスポンスの速い生徒を育てることも必要。大学入試が大きく変わろうとする中で本校は将来必要をされる事項を先取りしている感じがある。
- TOEFLiBT 対策にはリベラルアーツが必要。生徒は読書をしていない。いきなりのスマホ使用禁止には無理があるが、スマホの扱いについて再考の必要は有る。

[職員室]

- 5年以内に大量の定年退職が発生。ベテランの教員からの引き継ぎが無くなっても耐える組織作りが必要。そのため、職員室の改装を計画中。

[HP]

- アクセスの中心は30～40代。海外からのアクセスも多く、アメリカからのアクセス数が増えている。H28年3月にリニューアルを予定。

[夜間照明]

- グラウンドにLED投光器を6器設置し、運動部の冬季の活動をサポートした。

[自習室・進路指導室の機能の向上]

- 自習室・進路指導室の機能の向上とは。
- 資料作成用の綴機を購入する予定。

[募集クラス]

- 来年度は総計30クラスの可能性大。HR教室の確保が難しい。但し、他校も増学級が予想される。

[大規模改修]

- 本校は大規模改修対象校。しかし、校舎の耐久年数が50年から70年に変更された。また府の方針により、予算も削減され、当初の4年での完成予定が延長される模様。本校の施設の課題は電気容量が不足していること。H28年度はまず電気容量関係の工事が実施される予定。

[後援会費]

- 後援会費の納入率が入学生数に対し、20%未満。入学式での会費獲得の取組が必要。
- 先日PTAのOBOG会があり、学校の実情を訴えたところ、16,600円の寄付が集まった。今後も会費獲得に取り組む。

[理型]

- グローバル科に改編された場合、理型選択者が増加するのか。
- 増加が予想される。近年理型選択希望の生徒が増加傾向にある。本年卒業した50期生は普通科7クラス中、理型選択希望が2クラス半であったが、現1年生は普通科8クラス中、理型選択希望が4クラス。
- グローバル科の生徒は特にロジカルシンキングが必要。数学が大切。
- 勤務する大学の修士課程に箕面高校の卒業生が2名いる。いずれも他大学経由で入学している。理系文系問わずグローバル人材として数学は大切な教科。
- 現2年生国際教養科の数学的なポテンシャルは高い。

[中学生対象説明会]

- 説明会への参加者が増加した。昨年度比約25%増。

第3回 [平成 28 年 2 月 6 日 (土)] ●: 委員 ○: 事務局

≪「TOEFL iBT 特設レッスン」について≫

- 3/19(土)に校内で若手教員が中心となってワークショップを実施する。普通科の生徒も対象。
- 内容は？
- プロジェクト型。日本語によるチームビルディング及プレゼンテーション形式。英

府立箕面高等学校

語以外の教員が発起人となっている。バカロレア型の学習に近く、リベラルアーツのイメージ。

●社会科学等には適しているが、例えば物理をテーマに実施するのは難しいような気がする。

●2年間で英語のレベルが上がった気がする。ただ他教科がおざなりになってはいけない。注意が必要。

●英語以外の教科でも成果が出ていることを広報することが必要。

○このレッスンを見学していた他教科の教員も自分の授業で様々な取組にチャレンジしようとしている。

●このレッスンは来年度も実施予定か。

○元来この事業は府教委が17校を対象に実施しており、来年度も一定の予算措置はされる予定。3学年がレッスンの対象となるので時間帯の設定等での工夫は必要。この数回は、教育産業企業の講師は関わらず監修のみで運営できた。今後も監修は必要である。

●教員側が無理をせず取組を継続させることが大切。予算措置が終了した場合でもこのレッスン等は継続実施するのか。

○特設レッスンは廃止の方向で考えている。成果を普通の授業に取り入れることで本校のメソッドになればと考えている。普通の授業をレベルアップさせたい。

≪「平成27年度学校経営計画及び学校評価(案)」について≫

[HP]

○4月より大規模に改修予定。

[進路]

○TEAPを活用して受験するなど、チャレンジする生徒が出てきた。

●他大学経由で私の研究室の修士課程に所属している箕面高校の卒業生もいる。その様なキャリアもある。

○本校教員を講師とした保護者向け進路講演会を実施したところ、1・2年合計で約400名の参加があった。

[遅刻]

○遅刻が減少傾向にある。メロディーチャイムを導入した効果も大きい。

●約20%減少という、大幅な改善が見られる。

○数名の教員が毎朝校門で立番をしている効果もある。

[学校教育自己診断]

●保護者の肯定感が生徒より高い項目がある。他校でもこのように保護者の肯定感が高いのか。

○箕面高校は全般的に保護者も生徒も肯定感が高い。他校では50%を切る項目も多々見受けられる。

○教職員の学校組織に関する質問での肯定感が51%から72%に大幅に上昇した。学年主任を担任から外すことで、運営委員会等への担任の意見の吸い上げや、担任への声掛けをしやすくした。

[授業力向上]

○授業公開週間を平成28年度より導入予定。行事予定に組み入れる。

[予算]

○特設レッスンに代表されるアクティブラーニング用の教室を整備したいので、学校経営推進費獲得に来年度もチャレンジする予定。

≪「平成28年度学校経営計画(案)」について≫

○本年度の数値をもとに設定した。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価(1月末時点)
学力の向上	<p>(1) 学習スタンダードを作るための基盤整備</p> <p>(2) 教員育成のための研修・勉強会の立ち上げと整備</p> <p>(3) 学校組織の整備</p>	<p>(1) 学習スタンダードを整備するための素材集めを始める。</p> <p>(2) 上記(1)を遂行するために、新採者育成を含めた若手教員育成勉強会を5月より首席を核に、教科横断的に毎月1回の頻度で実施する。また、授業アンケート(7、12月)の課題把握と成果検証を明確に行い、フィードバックを明確にする。</p> <p>(3) 教員育成勉強会とともに「骨太英語プロジェクト」の遂行に向けて学校組織における分掌・委員会を整備、人事計画については中長期の視点に立った人材配置を行う。現在の職員室の机をフリーアドレス化し、教職員のコミュニケーションの活性化を図る。</p>	<p>(1) 本年度中にスタンダードの骨子の完成をめざす。</p> <p>(2) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・勉強会方針の完成 ・新採者人材育成ルートマップの完成 ・授業アンケートの改善、各教員授業満足度を5%改善とともに、保護者アンケートにおける「よくあてはまる」8%→20%</p> <p>(3) 本校の学校教育自己診断における全般に関する質問で肯定感87%→92%以上(生徒) 教職員の学校組織に関する質問の肯定感61%→70%(教職員)</p>	<p>(1) 骨子作成に至らず(△)</p> <p>(2) ・勉強会方針不作成(△) ・勉強会実施 1回(△) ・ルートマップ不作成(△) ・授業アンケート2回実施(7月、12月) 保護者アンケートにおける「よくあてはまる」(H26)18.8% → (H27)19.5% (○)</p> <p>(3) 学校教育自己診断12月実施 生徒85%(△) 教職員72%(○)</p>
グローバル時代に対応する教育システムの開発	<p>(1) TOEFL iBTを中心とした英語教育改革を行う。</p> <p>(2) 上記(1)実現に必要なスキルであるロジカル・クリティカル・シンキングを理解・実践する。</p> <p>(3) 海外留学しへの受入態勢を整備し、海外語学研修や修学旅行の機会を充実させる。</p> <p>(4) 国際科(グローバル科)開設に向けて、さらなる英語教育の充実を図る。</p>	<p>(1) 国際教養部を中心に、TOEFL iBTプロジェクトチームを発足し、現状分析と課題の把握、今後の方向性と課題解決策の策定作業に取り組む。また、「骨太英語プロジェクト」に関して、先行実施として、特設レッスンやiBT模試などを受験させ、成果検証を実施する。</p> <p>(2) 具体的な思考ツールの開発については、他校や企業などで使われているノウハウを吸収・研究し、本校にあったカリキュラムを構築する。</p> <p>(3) 「海外留学生受入方針」を明確に整備し、具体的な教育目標と数値目標を設定する。また、海外語学研修については、内容を再検討し、「骨太プロジェクト」との連動を整備する。</p> <p>(4) ア. 成果指標の新たなツールとして英語学力調査を新入生全員に受検させる。 イ. グローバル科設置準備委員会を中心に、箕面高校ならではのカリキュラム等を構築する。</p>	<p>(1) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・TOEFLiBTのスコアについて 平成27年度 Score60↑…6名 Score40↑…15名 ・骨太英語について「箕面シラバス」の骨子の完成</p> <p>(2) 上記(1)の2つめの内容と重複する。</p> <p>(3) 以下の遂行をめざす。 ・留学生の受入数 平成26年3名 平成29年5名 ・海外語学研修の更なる内容検討と整備</p> <p>(4) 以下の遂行をめざす。 ア. 英語学力調査全員受検 ・Basic(660)で 500以上20名 ・Advanced(810)で 600以上30名 イ. 「21世紀型能力」カリキュラムを開発し、周知する。(年内)</p>	<p>(1) ・TOEFLiBTチャレンジ 80名受検(10月) Score60↑…4名 Score40↑…14名(○) ・「箕面シラバス」作成途上(△)</p> <p>(3) ・留学生の受入数 平成27年1名(△) ・海外語学研修実施 ・教育産業講座40名参加 ・MIT等27名参加(◎)</p> <p>(4) ア GTEC1・2年全員受検(7月) ・Basic(660)で 520以上56名 ・Advanced(810)で 610以上14名 520以上72名(○) イ 「グローバル人材育成プロジェクト」を設置しカリキュラムを検討途中(○)</p>
進路・生徒指導の強化	<p>(1) 進路実現のために必要なシステムの開発を行う。</p> <p>(2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。</p> <p>(3) 地域との連携を意識し、様々な機会を通じて、情報発信と協働を行う。</p>	<p>(1) 学年・教科での認識の差をできるだけ少なくするために、進路指導室を中心に定期的な研修などを行う。</p> <p>(2) 生徒会を中心とし、今まで構築してきた生徒主体の部活動・行事運営に関して、より発展的でシステム化されたものを検討していく。</p> <p>(3) 国際教養部や骨太英語、部活動などを通じ、地域との連携を整備、強化していく。特にホームページに関しては、広報推進委員会(仮称)を立ち上げ、組織的な情報発信を行う。また、校内・校外美化の継続的な実施と地域との連携を進めていく。</p>	<p>(1) 次の内容完成と遂行をめざす。 ・国公立大学合格 平成26年度20名→30名 ・国内の国際系大学合格 平成26年度4名→8名 ・海外大学への進学 平成26年度3名→5名</p> <p>(2) 次の内容完成と遂行をめざす。 ・箕面高校進路指導システムの構築と徹底。遅刻者数6000名→5000名。 ・生徒会・行事における基本方針の作成</p> <p>(3) 次の内容完成と遂行をめざす。 ・ホームページのアクセス数の増加。(参考:府立他校のアクセス数約200件/1日程度→約300件) ・学校教育自己診断の保護者アンケートにおけるホームページ閲覧に関する質問での肯定率52%→60%</p>	<p>(1) ・国公立大学合格38名(H26,47名)(△) ・国際系大学合格2名(H26,2名)(○) ・海外大学進学予定1名(H26,3名)(△)</p> <p>(2) ・遅刻者数(12月末現在) 6062名(H26,5038名) 17%減(3年;22%減)(◎) ・基本方針不作成(△)</p> <p>(3) ・ホームページアクセス数 (7/17~11/6,113日) 22087回(195回/日) (H26;208回/日)(△) ・ホームページ閲覧 31%(△)</p>
学校経営推進費事業の活用	<p>(1) 平成27年度学校経営推進事業を活用する。</p>	<p>(1) 自習室・進路指導室の機能の向上を図る。</p> <p>(2) グローバル科設置に伴い職員室を改修する。</p> <p>(3) 教職用ICT機器の充実と研修体制の確立を図る。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断の進路指導に関する質問で肯定感(H26)87.4%→89%</p> <p>(2) 学校教育自己診断の学校組織に関する質問で教職員の肯定感(H26)50.9%→55.0%</p> <p>(3) 学校教育自己診断の校内研修に関する質問で教職員の肯定感(H26)63.6%→70.0%</p>	<p>(1) ・生徒87%(△)</p> <p>(2) ・教職員72%(◎)</p> <p>(3) ・教職員71%(○)</p>